

小学校外国語の専門人材育成・確保事業
(MEIKAI-JOE)
第4回講座

小学校英語の授業づくりと評価について
-小中連携の視点を通して-

2020年12月16日

15:00-16:30

WEB研修

玉川大学大学院 教育学研究科 佐藤 久美子

kumi@lba.tamagawa.ac.jp

◇ 自己紹介

- 専門：子どもの言語獲得・発達研究（日本語+英語）
英語教育
玉川大学勤務-小・中・高校の教員多数輩出
現在教職大学院-小学校・教育委員会にて研修・講演
例：東京都・京都府教育委員会、中央区小学校他多数
- NHKラジオ「基礎英語3」2016年まで8年間講師
- 2013年～現在に至る NHK Eテレ「えいごであそぼ」
「えいごであそぼ with Orton」総合指導
- 2017年～現在に至る NHK Eテレ「エイゴビート」監修
- 著書「Welcome to Tokyo 指導案」（東京都）
「イラスト図解小学校英語の教え方25のルール」（講談社）
「新レインボー小学英語辞典」（学研）など
- J*shine理事



本日の流れ

15:00-16:30

- (1) 小中連携の視点を通して
- (2) 小学校英語の授業づくりのポイント
- (3) 評価規準 1
- (4) CLIL (Content Language Integrated Learning
内容言語統合型学習法) 教科横断型学習を通して
評価をつける
- (5) 評価規準 2
- (6) 質疑応答

(1) 小中連携の視点を通して

■ 英語教育時間の比較

- 小学校3・4年生の外国語活動 $35\text{時間} \times 2 = 70\text{時間}$
- 5・6年生の外国語（英語） $70\text{時間} \times 2 = 140\text{時間}$
- 合計 210時間

- 中学校 週4時間 $\times 35\text{週} = 140\text{時間}$
- 小学校3~6年の学習時間 > 中学校1年間の学習時間

- 小学校・中学校も4技能5領域
- 小・中学校の接続の重視
- 学びの連続性を意識した指導

■外国語科の目標は共通

- ・小学校外国語科 中学校外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの

言語活動を通して（ここまで小中共通）

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す（小学校）。

簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す（中学校）。

■ 「言語活動」とは

「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動

コミュニケーションの
目的や場面、状況などの設定

● 練習と区別が必要

- 英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合うという要素がない活動
(歌やゲーム、英語の文字をひたすらに書く活動)

■ 小学校で英語を導入する意味・目的は

- 『人前で堂々と自分の思いや意見が伝えられる＋友だちの話をしっかりと聞ける』 児童の育成
- 社会の変化
国際化・価値の多様化…
児童が成長したころは**共生の時代**
異なる考え方や文化を理解する**寛容な心**を育む
- 外国語に親しみ、**学んだことを活用しながら**、自分の思いや意見を加えて**コミュニケーション**をとろうとする児童の育成

言語活動はどんな時に高まる？

1. 必然的な場面で
2. 友達に英語を使って発表するという具体的なゴールイメージがあり
3. 身近なトピックを扱い
4. 自分の思いや考えを自由に表現できる時に高まります。（自由度が高い）

■ 言語使用場面の例—身近な場面

小学校3, 4年生/5, 6年生

言語の使用場面：児童の身近な暮らしに関わる場面

- ・ 家庭
- ・ 学校
- ・ 地域の行事
- ・ (子供の遊び)

特有の表現が使われる場面

- ・ 挨拶
- ・ 自己紹介
- ・ 買い物
- ・ 食事
- ・ 道案内
- ・ 旅行

中学校

言語の使用場面：生徒の身近な暮らしに関わる場面

- ・ 家庭での生活
- ・ 学校での学習や活動
- ・ 地域の行事など

特有の表現が使われる場面

- ・ 自己紹介
- ・ 買い物
- ・ 食事
- ・ 道案内
- ・ 旅行
- ・ 電話での対応
- ・ 手紙や電子メールでのやり取り など

(2) 小学校英語の授業づくりのポイント

- (1) 授業構成を一定にし、「やり取り」の多い授業
 - ・ Warm-up→Practice→Activity→Presentation
 - ・ 4技能5領域：聞く 話す（やり取り・発表）
読む 書く
- (2) 明確なめあて：見通しが持て、Goalが明確
最終的な発表を意識した授業づくり
- (3) 対話的な必然性のある場面を導入
Small Talk/Oral Introductionでめあてを見せる
- (4) CLIL（教科横断的な）学習の導入
 - ・ 小学校における調べ学習を取り入れる→
対話的な深い学びへ

■ 活動の手順が示され、練習も十分に行なう

- Goal: 好きなTシャツを作ろう
- Warm-up/練習

色の名前を覚える : red, blue, yellow, ...

目標表現 : I like ~. (色の名前)

- Activity : お店屋さんゲーム

お客 : Hello.

お店 : Hello.

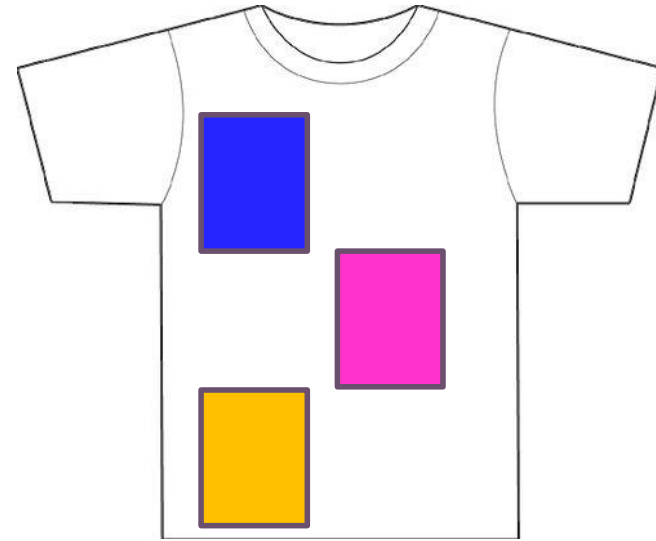
お客 : I like blue.

お店 : Here you are.

お客/お店 : Bye.

- Presentation(発表) :

I like blue. I like orange. I like pink.



好きな色3つを選び、Tシャツのワークシートにのりではる。

■ 必然的な場面を利用した発表方法（発達段階を考慮）

「相手の好みを英語で尋ねて、T-shirtをデザインしよう！」

・デザイナー（D）と顧客（C）

D: What color do you like?

C: I like blue.

D: What shape do you like?

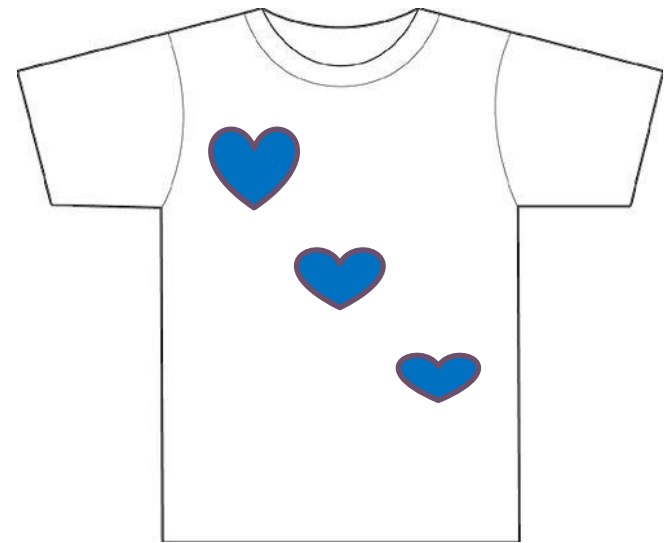
C: I like hearts.

D: How many hearts?

C: Three, please.

D: Here you are. Do you like it?

C: Great! I like it!



■ 必然性のあるActivity

- We can! 5年 L. 2 When is your birthday?
- 行事・誕生日

- 目標表現：When is your birthday?
登場人物の誕生日を聞いて、線で結ぼう→Practice(練習)

- A: When is your special day?
B: My special day is January 17th.
It's my mother's birthday.

(3) 評価規準 1

「指導と評価の一体化」のための学習 評価に関する参考資料 2020年3月

- 小学校 外国語・外国語活動

- 文部科学省 国立教育政策研究所

National Institute for Educational Policy
Research

- 教育課程研究センター

目次

第1編 総説

第1章 平成29年改訂を踏まえた学習評価の改善

1. はじめに
2. 学習評価の意義
3. 評価の観点の整理
4. 各教科の学習評価
5. 外国語活動の指導要録の記録
6. 障害のある児童生徒の学習評価
7. 評価の方針等の児童生徒や保護者への共有

第2章 学習評価の基本的な流れ

第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

第3編 単元ごとの学習評価について（事例）

第1章 「内容のまとめり（5つの領域）ごとの評価規準」の

考え方を踏まえた評価規準の作成

第2章 学習評価に関する事例について

◇はしがき 「指導と評価の一体化」

- 2020年4月施行の学習指導要領全面実施

- ① 「知識及び技能」
 - ② 「思考力, 判断力, 表現力等」
 - ③ 「学びに向かう力, 人間性等」
- 目標の3観点

- どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確化
⇒教師が 「子供たちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え, 主体的・対話的で 深い学びの視点からの授業改善を図る。

- 「指導と評価の一体化」の実現へ期待、PDCAサイクルの確立

◇PDCAサイクルとは？

- Plan(計画) ⇒ Do (実行) ⇒ Check (評価) ⇒ Action (改善)
- 長所
 - ① Goal=目標・めあてが明確になる
 - ② 学習に集中・理解しやすい・見通しが持てる
 - ③ 課題や問題点が分かる
- 失敗例（見通しを持った指導案が立てられていない）
 - ① Plan: Stepsの欠如、Presentationの欠如
 - ② Do: Activity（練習と必然性のある場面での発話）
 - ③ Check:なんとなく合格！Good!－判断基準が不明確
 - ④ Action：改善に向けて検証/数値化された指標

第1章 学習評価の改善

- ① 「観点別学習状況の評価」：複数の観点ごとに分析する評価、各学校で評価規準が必要
- ② 「評定」（上記を相対的に捉える）
- ③ 「個人内評価」（観点別学習状況の評価や評定には示しめしきれない児童の良い点、可能性、進歩の状況

◇新学習指導要領 平成29年改訂

◆「観点別学習状況の評価」

【知識・技能】

【思考・判断・表現】

【主体的に学習に取り組む態度】

評価の3観点



- ①学習評価の場面や方法を工夫。学習の過程や成果を評価
- ②「学習指導・評価」は組織的かつ計画的に
- ③主体的・対話的な学びの観点から授業改善・評価が大切
- ④生徒の学びを振り返り、学習改善・指導改善へつながる評価

■学習評価の場面や方法の工夫/過程や成果を評価

【知識・技能】ペーパーテストで知識の習得を問う→概念的
理解を問う問題とのバランスが必要

例:文章による説明、観察・実験、式やグラフで表現→多様に

【思考・判断・表現】ペーパーテスト、レポート作成、発表、
グループでの話し合い、作品の制作や表現、ポートフォリオ

◎児童が思考・判断・表現する場面を効果的に設計する

【主体的に学習に取り組む態度】積極的な発言・行動面の評価
→ノート等の記述、発言、行動観察、自己・相互評価

◎意志的な側面を評価することが大切

- ①知識や表現力などを身につけようとする粘り強い取り組み
- ②取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

■ 小学校児童指導要録

- ・ 観点別学習状況

「十分満足できる」 A

「おおむね満足できる」 B

「努力を要する」 C

- ・ 評定（第3学年以上）（中学校では5・4・3・2・1）

「十分満足できる」 3

「おおむね満足できる」 2

「努力を要する」 1

- ・ 個人内評価：上記の評価で示しきれない良い点や可能性、
進歩の状況

- ・ 外国語活動について：評価の観点を記入した上で、児童の
学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入。児童
にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述。

(4) CLIL (Content Language Integrated Learning) 内容言語統合型学習法：
教科横断型学習を通して評価をつける

他教科で学習する内容を使って、英語学習を進める。

新学習指導要領【総則から一新設事項】

カリキュラム・マネジメント

- 各学校において、教育活動の質の向上を組織的かつ計画的に、さらに教科横断的な視点で組み立てる
- 現代的な諸課題に対応した資質・能力と教科横断的な視点から教育課程の編成を図る

■小学校5年生の例（社会科） （久米川東小学校指導案より）

「都道府県についてのクイズ大会をしよう」

Goal：日本の気候や地形などについて理解を深め、基本的な表現を用いて伝え合う。

- 既習：気候-hot/cold 農業-rice/potato/tomato 季節
- 新出：地形-highlands/lowlands 量-a little/a lot
- Where is it? It is famous for ～（農業・観光）。

1校時：日本の気候や地形について英語を使って振り返る

北海道：It is cold in winter. It rains a little all seasons.

太平洋側：It is hot in summer. It rains a lot in June and July.

日本海側：It snows a lot in winter.

中央高地：It is highlands. It is cold in winter.

2校時：社会科の授業「地図帳やインターネットを使ってクイズに出す地域の有名な物を調べる」

- ・都道府県の有名な物・気候・地形・産業・観光etc.

3校時：

- ・ヒントとして適切なものを考える

- ・英語の辞書を使い単語を調べる

4～7校時：英語で書いて口頭練習

8～9校時：6年生や大学院生にクイズを出す発表

4 Hint quiz.

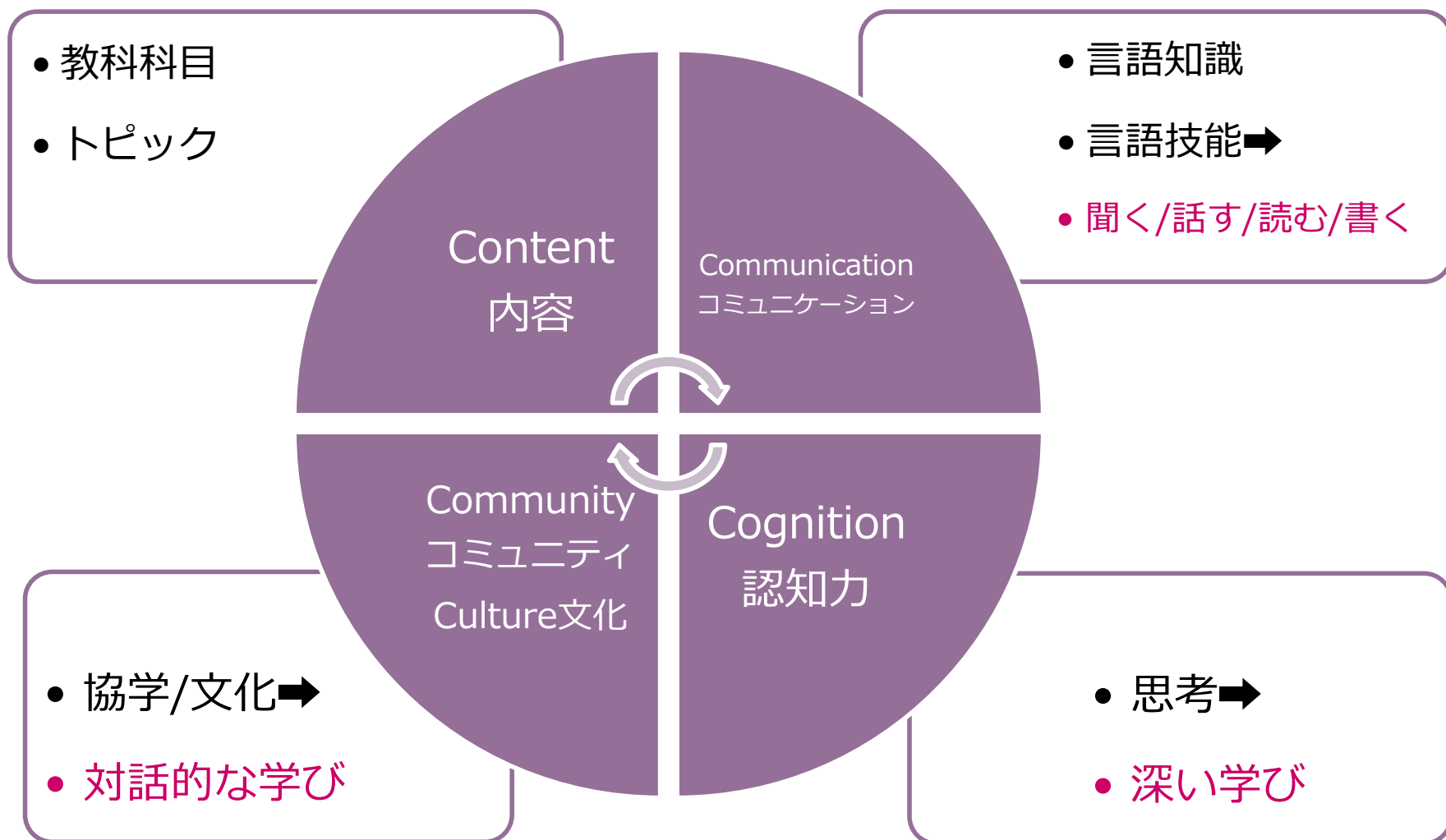
S1: Hint 1 S2: Hint 2 S3: Hint 3 S4: Hint 4

Where is it?

The answer is ~.

◎振り返り：調べ学習、クイズ作りが楽しい

The 4Cs Framework



◇ 3年生 図画工作

「色の組み合わせ・色水で調べてみよう」

学習言語：色の名前

学習のための言語：plus/a bit of black

◆CLILの授業開発の例 1

授業の流れ 第1回目の授業：

①Step1：色カードを見せながら、基本「色」を学習

Red, yellow, blue, purple, orange, green, white,
pink, brown, black, gray

反復練習/Missing Game/Touch Game

②Step2：「色の足し算プリント」Group 学習。

Blue plus red make purple. A bit of black.の言い方が人気。抹茶色 vs. matcha (参照：高木・中山2018)

例：Black and a bit of white make gray.

(知/技) 色の名前を言ったり、色の足し算を理解している (b)

(思/判/表) 色の足し算で自分の考えも含め、話している (a)

(主体的態度) 足し算で自分の考えも含め、話そうとしている (a)

◇ 3年生 算数

「算数の足し算・引き算を1から10までの英語を使って伝え合える」

学習言語：1～10の数/plus/minus

学習のための言語：Numbers/How many～？

◆ CLILの授業開発の例 2

授業の流れ 第1回目の授業：

① Step 1 : 数字の復習-2gorupで交互に/逆順/バラバラ

② Step 2 : 'Number game'

- Let's do the number game. We use the fingers.
When I say "one", show me one finger.
When I say five, show me five fingers.

'Lucky seven game'

- Make pairs. Show me your right fingers.
Only use the numbers of two, three, four, and five.
Try to make the numbers of seven with your partner
saying "Lucky seven".

Step3 : 算数用解答用紙を配布。

問1 : 児童は担任教師が英語で言った数字を聞いて、その数字を解答用紙に記入。

問2 : 算数の足し算・引き算の計算

例 : Question: $\square + \square = 8$

Answer: $1 + 7$ 、 $2 + 6$ 、 $3 + 5$ 、 $4 + 4$ 、 $5 + 3$ 、

$6 + 2$ 、 $7 + 1$ 答えを考えて、英語で発声する。

(知/技) 数字を言ったり、 $1 + 7 = 8$ の尋ね方・答え方を理解している。問1のワークシートは答えられる。(b)

(思/判/表) 問2の問題で、いろいろな答えを考え、伝え合っている。(a)

(主体的に学習に取り組む態度) いろいろな答えを考え、伝え合おうとしている。(a)

ちょっと一休み

Let's enjoy CLIL Quiz !

3 Hint Quiz ①

What's this prefecture?



- Hint 1: It's famous for tea.
- Hint 2: It's famous for oranges.
- Hint 3: It's famous for a very high mountain.
- What's this prefecture?

3 Hints Quiz ①



5年生のやり取りの例（デジタル教材⇒メモリー・ゲーム）⇒自分の行きたい国

A: I can see Iguazu Fall.

B: You can see Iguazu Fall. I can see the carnival.

C: You can see Iguazu Fall. You can see the carnival. I can see coffee farms.

【practice】

You can eat ~. It's delicious.

You can see ~. It's wonderful.

You can buy ~. It's beautiful.

【interaction/presentation/speech】

一般的な発表例 例：旅行社を訪ねる

A: Where do you want to go?

B: I want to go to Brazil.

A: You can see Iguazu Fall.
You can eat "Pon de kejo."

B: Thank you.

Aの評価: (知/技)	b→a
(思/判/表)	b
(主体的態度)	a
Bの評価: (知/技)	b
(思/判/表)	b
(主体的態度)	b

単元や題材のまとめ⇒授業改善

- ・自身の学びや変容を自覚できる場面
- ・対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面
- ・児童が考える場面と教師が教える場面

Brazil



5年生の例 +α がいっぱい の発表例

A: Hello.

B: Hello.

A: Where do you want to go? B: I want to go to ~.

A: Oh, I see. You want to go to ~. Why? ㊦reaction

B: I want to see Rome.

A: It's ~ (nice/great/good). Let' go to Italy! ㊦

You can see the colosseum. B: What's that? ㊦

A: This is the Colosseum. ㊦



B: Oh, I see. It's big! ㊦

A: Yes. It's exciting. Do you ~ (like/know)~?

B: Yes, I do. / No, I don't.

A: You can eat pizza.

(調布市石原小学校授業一部参照)

Aの評価: (知/技) a (+既習) (思/判/表) a (主体的態度) a

Bの評価: (知/技) a (+既習) (思/判/表) a (主体的態度) a

■ 【Script + α 】 は明日の評価にもつながる

- ・ 発表 (speech/presentation)

ある中学校で：

Who is your hero?でライティング：

- ・ いろいろな文（既習表現）を使おう
- ・ 8文 = B
- ・ 6文以下 = C
- ・ 10文以上 = A

小学校でも参考になる⇒評価を共有

- ・ 文の数（目標表現+ α ）、Reaction、感想など…

第1章 平成29年改訂を踏まえた学習評価の改善

1. はじめに
 2. 学習評価の意義
 3. 評価の観点の整理
 4. 各教科の学習評価
 5. 外国語活動の指導要録の記録
 6. 障害のある児童生徒の学習評価
 7. 評価の方針等の児童生徒や保護者への共有
-
7. 学習評価の妥当性や信頼性を高める、児童生徒自身に学習の見通しを持たせる
 - ⇒学習評価の方針を事前に児童生徒に共有する場面を設ける
 - ⇒様々な機会を捉えて保護者と共通理解を図る

(5) 評価規準 2

第2編

「内容のまとめりごとの評価規準」を
作成する際の手順

◆小学校外国語の「内容のまとめり (5つの領域)」

- 4技能5領域
- 聞くこと・読むこと・話すこと（やり取り）・話すこと（発表）・書くこと

○ 聞くこと

ア ゆっくりはっきり話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取れることができるようにする。

イ ゆっくりはっきり話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報¹を聞き取ることができるようにする。

ウ ゆっくりはっきり話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

聞くこと

- ・ 知/技-誕生日・欲しいものを聞き取っている
- ・ 思/判/表-相手のことをよく知るために具体的な情報を聞き取ろうとしている
- ・ 主体的態度-思/判/表に同じ)

A: When is your birthday?

B: My birthday is May 25.

A: Oh, your birthday is May 25.

My birthday is May 23.

B: Really?

A: What do you want for your birthday?

B: I want a bike.

A: You want a bike. I want a watch.

Aの評価: (知/技) $b \rightarrow a$
 (思/判/表) $b \rightarrow a$
 (主体的態度) a
 Bの評価: (知/技) b
 (思/判/表) $b \rightarrow a$
 (主体的態度) b

○ 読むこと

ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。

イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

読むことの例

We Can! 2 Unit 4 I like my town.

【知識】

施設・建物を表す語句やWe (don't) have～. We can enjoy/see ～. I want ～. の表現、終止符の基本的な符号について理解している。

【技能】

自分たちなどが住む地域について、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現で書かれた友だちの考えや気持ち等を読んで意味が分かるために必要な技能を身につけている。

◎友だちの書いたものを読める

Activity 2 町のミニポスターを作ろう。(相手意識)

This is my town!

Sakura is nice. We have a big station. We don't have a park. I like soccer. I want a big park.

○ 話すこと【やりとり】

- ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり¹、それらに応じたりすることができるようにする。
- イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
- ウ 自分や相手のこと及び身の回りのものに関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして²、伝え合うことができるようにする。

1 これが「言語の働き」と呼ばれる例。Can-do listとも言われ「～ができるようになる」というリスト。

- (指示・依頼の例) Come here, please.
I'd like spaghetti.

(3, 4年は挨拶・感謝・簡単な指示・相づち・礼を言う・褒める・事実・情報を伝える・説明・答える・申し出・意見を言う・質問・依頼・命令など)

(5, 6年は増えている：呼び掛ける・聞きなおす・繰り返す・謝る・報告・発表・賛成・承諾・断る)

2 「特有の表現がよく使われる場面」

- 挨拶
- 自己紹介
- 買い物 (例：How much is the bag?- It's five hundred yen.)
- 食事 (例：What would you like?-I'd like pizza.)
- 道案内
- 旅行

○ 話すこと【発表】

- ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や**基本的な表現**を用いて話すことができるようにする。
- イ **自分のこと**について、伝えようとする**内容を整理**した上で、簡単な語句や**基本的な表現**を用いて話すことができるようにする。
- ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の**考えや気持ち**などを、簡単な語句や**基本的な表現**を用いて話すことができるようにする。

○ 書くこと

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

指導要領では、さらに次の4つの具体的な内容

1. 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。
2. 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。

- 自己紹介で“My name is Kumiko.”と紹介したのち、“K, u, m, i, k, o.”と名前のつづりを言う（スペルアウト）活動などができます。
- 体の部分を表す単語に慣れ親しんだ後にクロスワードパズル式のワークシートでnoseを見つける活動も可能です。

3. 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。

4. 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。

*反復される文が読めるようになる。

慣れてきたら音声や態度にも注意させる

- 英語の単語や文では、強くアクセントをつける部分がある。
- 例 : banana December I go to school.
What do you want?
- Are you a student? ↗ I like apples. ↘
- Eye contact, clear voice, 姿勢などに気を付けて発表。

学習評価の進め方

1. 単元の目標作成

2. 単元の評価規準を作成

3. 「指導の評価の計画」作成

授業を行う

4. 観点ごとに総括する

○ 1, 2を踏まえて、評価場面や評価方法を計画する。

○ 評価資料（児童の反応やパフォーマンスなど）を基に、「おおむね満足できる」（B）等評価を考えたり、「努力を要する」（C）への手立て等を考える。

○ 3に沿って、観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善、教師の指導改善につなげる。

○ 集めた評価資料に基づき、観点ごとの総括的評価（A,B,C）を行う。

(6) 質疑応答